

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の生活歴を重んじ、日々、その方に喜び楽しみ等を感じて頂ける様接している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理職と職員は、日々の理念の実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者のご家族には面会時、家族会の折り、又地域の推進会議、ボランティアの方等に、理解していただける様に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が野菜を持ってきて下さったり、立ち寄って入居者の方と談話されたり、体操と一緒にされたりと、日常的な付き合いを行っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	まだ地域活動に参加はしていないが、地域の方がボランティアで来訪、歌、舞踊を披露していただいている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の重度化により、まだ、そのような話し合い、取り組みの計画はない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い取り組んでいる。 評価で見出された課題について、改善計画を立てて、実施に取り組む等、質確保、向上を目指している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一回行っており、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ、運営推進会議以外の交流は保たれていない。	○	市の担当者との話し合いの機会多く持ち、色々と指導等頂きサービスの向上を図りたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について学習するも、現在のところ話し合い活用の場がない。	○	必要な方には話し合い、活用できるよう支援して生きたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は入居者が自宅でも、ホーム内においても虐待されることがないように、注意防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される折り、ご家族様に書類を私、又説明しながら理解、納得して頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、要望等に耳を傾けミーティ ング、日々の申し送り時、職員間で話し合 い対応している		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月初めに各担当者が入居者の生活状態、 健康状態、服薬の変更、職員の思い等、手 紙を書いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折、玄関横に設置している投書箱に 要望意見等を書いて投函して頂いたり、家 族会の中で意見、不満、苦情等を伺い運営 に反映させている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月1回の全体ミーティング、日々の伝達、 申し送り等に寄り、意見、提案を聞いて運 営に反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	シフトに沿っての勤務体制なるも、入居者 の身体の状態（急変）家族の遺構等に寄 り、その都度話し合い連絡し調整に勤めて いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立5年目に入り、ここ3年間ほどは職員 の離職もなく、安心して入居者に日々お過 ごし頂いております。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たっては、多様な個性を尊重、一人ひとりのキャリアを見据えた人事、人材育成に努めている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の人権は確保している。全職員（パートも含む）に研修の機会を作り、職員間で共有できるよう、研修内容を報告する機会も作っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進、パートも含め、研修会に参加する機会を作っている。月1回のミーティングの時報告、内容を確認しあっている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、施設長、管理者、ケアマネージャーが主で、他の職員の交流は殆どない現状である。	○	一般職員も交流の機会を作っていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者に密にかかわるのでストレスはあると思う。休息時間は職員間でゆっくり会話を楽しんでもらっている、又、2ヶ月に1回は夜勤者を除き職員で食事会をを行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日出勤しており、勤務状況、現場で起きている状況、変化は把握している。また、職員の健康状態、努力や成果も把握している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	意思疎通が可能な方は、置かれている状況を把握し、何を求めているのか十分話し合いをしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と家族関係を主に十分に話を聞き、今後のケアを行う様にしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、実情・要望をもとに、グループホーム以外のサービスも視野に入れ、本人・家族に対応している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と相談し、通所して徐々に慣れた所で、入居できるような工夫も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意分野では発揮してもらい、職員は教えてもらう側になる時もある。支援するだけでなく、共に力をあわせて過ごしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の状態を説明しながら、共に協力、支援し合い、より良い方向に行くような関係を保っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活を別にしても、より良い関係を築いていけるよう、月に数回の面会、または外出を家族に促している。最低月1回は来て頂いている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しくしていた方とに面会、なじみの場所へは、家族に連れて行っていただくようお願いしているが、現状は難しい状態である。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	8名の入居者であるが、仲の良し悪しがあったり、居室でひとりで過ごすを好まれたりと、中々共に助け合い支えあうのは難しい。良い関係が保たれるよう職員は努力している。	○	
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去して家族の元に戻られても、入院されても、時折、近況を尋ね、思い出話をする等、出合いを大切にしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、一人ひとりの生活歴、経験、出来事を知り、その人らしい暮らしを支え活かしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に聞き取り、フェイスシートに記載。他の職員に情報提供し、出来る限り入居前の暮らしと変わらない様な生活をして頂くよう勤めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日誌を作成し、一日の流れ、一般状態、特記事項等、職員一人一人が把握し、日々努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意思疎通可能な方は、本人と十分話し合い、家族の面会時に意見、要望を聞き、Dr指導を仰ぎ、3ヶ月に一度、ケアマネジャー、管理者、担当職員でカンファレンスを行う。それにより、ケアマネジャーが作成する。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し、変化が生じた場合は意思疎通な方は本人と、出来ない方は家族と話し合い、職員との話し合いでケアマネジャーが作成する。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、レク日誌、申し送り簿等により、一人ひとりの状態を把握し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、入居者にとって負担にならないよう、医療処置を受けながらの生活継続に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社協、区長、老人会、民生委員、ボランティアの方々、警察、消防機関等を協力しながら支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のほかのケアマネージャーと話し合いの機会は持っている。 入居者、家族の希望を叶える為に、今後サービス事業所とも話し合いを行っていきます。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市の包括支援センターに相談することはある。認知症の人を地域で支える等と、協働とまではしていない。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医、ならびに歯科医に週1回往診をお願いしている。 急変時はその都度往診して頂き、入院の必要性があれば入院手続きをお願いして対応している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科医に入居者の状態を報告、相談し、適切な治療が受けられるよう、専門医を紹介していただき受診している。(入院になることもある)		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月1回の全体のミーティング、毎朝・夕の申し送り、特変時はその都度職員間(准看護師2名を含む)で、話し合い、相談しながら入居者の健康管理に努めている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院されるとき、職員も同行し先生にお話を伺い、また職員の方にもホームでも心身の状態、生活等申し送りをさせて頂き、安心して入院生活を送られ、又、一日も早く退院される様、病院との連携、ご家族様との連絡に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の面会時、終末期のあり方をご家族様にも伺っている。 主治医も把握して頂いており、全員で方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の日々の状態を把握し、早期に主治医、ご家族様と話し合いに取り組んでいる。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所者が別のグループホーム等へ転居される折、職員の方への申し送りを大切に心がけている。 一日も早く転居先に馴染まれるように。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重し、職員一人ひとりが思いやりの心、言葉を持って日々接している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくりとした口調で話しかけ、難聴の方には傍に寄り耳元で話しかける。入居者が一日を楽しくゆったりと過ごして頂ける様心がけている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在のところ、ホームの一日の流れに沿って対応している。	○	お一人おひとりの希望に沿って出来る限り支援をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容はホームと提携している、理容室から2ヶ月に1回予約して来て頂いている。 髪型、長さ等は本人の好みに合わせてしてもらっている。自分で身だしなみが出来ない方は、職員と一緒に選んでいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成しているが、その方の嫌い物等メニューにあるときは、別の料理を作って対応している。1、2名ですが、食事の準備、片付けを手伝ってもらっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは一般的に同じものをお出ししている。嚥下困難な方は別途にトロミをつけてお出ししている。一応、たばこ、お酒はお出ししていない。 (現在飲まれる方はいらっしゃらない)		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助の必要な方は、時間帯を決めているが、その都度、便意、尿意があれば対応している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところ、入浴日は(月、水、金)と決めており、便汚染があった時はその都度、シャワー浴を施行している。	○	その方に合わせた入浴が一番理想とは思いますが、現在お一人で入浴できる方は少なく全ての方が見守り介助で検討しています。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れにそって、一日を経過していますが、申し出があったり、休息が必要な方はその都度対応している。	○	一人ひとりの居室の湿度、喚起に留意し、気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、植木の手入れ、草取り、洗濯物を干したり、たたんだり手伝ってもらっています。終わったあとに一人ひとりに満足感が見られます。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自分でお金を持ってある方がいらっしゃいましたが、現在は自分で管理が難しい方が多く、家族の方をお願いしています。必要時は、ホームが立て替えて、後でご家族の方より徴収しております。	○	お店に連れて行き、見たり、触れたりして好きなものを手にして、お金を渡し、レジにて支払いをさせてあげたい。生活習慣を思い出して頂く為に。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩は、その方に合わせて職員が同行していますが、車ででの外出は年間の行事にそって支援しています。職員が買い物に行くとき、用事で出かけるとき、一緒に外出することもあります。	○	現在よりも多く、その方に合った外出をさせてあげたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見(桜、藤)には全員の方を職員が介助し同行している。川下り等、家族の方にも声かけしてきて頂いている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけられる方は少なく、職員がお手伝いしています。手紙をかかれる方は声掛けしても今のところいらっしゃらなく、月に1回、職員がご家族様に状況報告のお手紙を書いております。	○	手紙を書くのは無理でも電話で家族とのお話をさせてあげたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ホーム内を家庭的な雰囲気に工夫して一人ひとりがご家族様、お友達等気軽に来て頂き、のんびりと談話されたりくつろいで頂ける様、職員一人ひとりが心がけております。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが拘束禁止を把握しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、車椅子4名のうち2名は必ず落ち防止の為、やむおえなく丁字ベルトを使用している。 (家族に許可をもらっている)		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は玄関の施錠はしていないが、入居者の状態に応じて施錠をすることもある。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者のプライバシーに配慮して、謝罪や状態を把握し日々心がけている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態を見ながら職員全員が管理保管が必要とされたとき、危険防止の為、管理保管をする。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回のミーティング、日々の申し送りにて准看護師、ケアマネージャー、管理者等に寄る実施、知識を把握し、事故防止に取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急マニュアル、伝達、指導を行い職員全員が救急時や事故発生に備え、対応している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時、災害時に近隣の方に外部に聞こえる様、ブザーを設置して協力を得られるようお願いしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会、面会の折、一人ひとりの状態を説明しご理解を頂いて対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日入居者全員バイタルチェックを施行している。一般状態、食事、排泄等職員全員が把握して、急変あれば主治医に連絡、指示を受けたり、往診をお願いして対応に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員、入居者の服薬の目的、副作用、用法、容量について理解している。准看護師が定期的に確認している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、入居者の排便の有無を確認しており、食事の工夫、水分補給、運動等心がけている。排便困難時、主治医の指示にて緩下剤を与薬することもある。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯を自分で洗える方は洗ってもらって、介助が必要な方は職員が手伝っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より一人ひとりの1日のカロリーの指示を受けている。その方の咀嚼、嚥下力等に応じて食事に工夫している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、日々の嗽、手洗い、必要に応じディスポ手袋使用、エタノール消毒等、清潔に心がけ対応している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫の掃除(エタノール水拭き)を行い、食品のチェックをし安全な食材の管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲、玄関等、植木や草花を植え、気軽に親しみやすく、おいで頂ける様工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に採光を取り入れ、植木、草花、装飾品、人形、調度品、四季折々の写真、入居者の日々の写真、手作り作品等を全体に取り入れ、明るく和やかな空間作りに心がけている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まりのテーブル、いすの他にホール、和室にソファを置いている。和室は掘りごたつ式になっており、一人ひとりが、又、気の合った方が過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者様の思い出の品物を本人、家族の方と相談し、飾ったり置いたりしている。(殆どの方が、荷物につまづき転倒されることも多い為、最小限度にさせてもらっている) 本人、ご家族の了解をもらっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節、換気をこまめに行い消臭剤、芳香剤等を使用し気持ちの良い居室空間に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護が必要な方は介護ベットを使用し、廊下、トイレ等囲いを取り付け洗面台は低めに取り付けている。脱衣所の足元は滑らないように石を使用している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる事、出来ることを取り入れ一人ひとりに対応している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の前が堤防になっており、道路が斜面になっている為、散歩には好ましいとはいえない。ベランダも狭く活動できない。	○	為物の移動を検討中である。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の一番の楽しみは食べることで、特に年配の方が多く、昔ながらの煮物が特に好物のようです。

肉、魚、野菜、その他の食材を献立表を見ながら工夫しています。

身体の状態が特に悪くない限り皆さん3食共に全部摂取されております。

ご家族の方からも、当方に入居後明るく元気になった。顔色が良くなり笑顔を見られるようになった。と喜んで頂いております。

入居者がのんびり、ゆったりと日々お過ごし頂けるよう職員一同努めさせて頂いております。